中国経済論

東京女子大学　2019年度

第3回

丸川知雄

計画経済の仕組み

1．計画経済の理論的正当性

- ブハーリンとプレオブラジェンスキー『共産主義のABC』(1920)によれば、計画経済は資本主義に対して二つの優位性がある。第一に、「生産の無政府性」を克服できること、第二に、階級闘争がなくなること(cited from Michael Ellman, *Socialist Planning*)
- 「生産の無政府性」とは何か。資本家は個別的に利益を追求して生産力を蓄積する一方、労働者階級は搾取されているため、生産物を十分に消費できない。その結果、過剰生産と恐慌が起きる。そこで資本家は国外に市場を求める。資本家に突き動かされた国家は帝国主義的拡張に走り、衝突が起きて世界戦争になる。
- 社会主義の世界では、資本主義のもとで階級闘争に注がれていた人々のエネルギーが解放される。

キャッチアップの手段としての計画経済

- 社会主義が盛んになった時期は帝国主義の時代と重なる。東ドイツやチェコを除く社会主義国は後進地域であり、国力が弱ければ植民地化される恐れがあった。
- スターリンは1931年に第1次5か年計画を始めるに際して、もしロシアが貧しく弱いままでは戦いに敗れ、奴隷化されるだろうと述べ、急速な工業化を正当化した。
- それ以来、計画経済は国家セクターにおける急速な資本蓄積を進める手段として使われた。国家が資本を蓄積する傍らで、人々の生活水準は犠牲にされた。人々に犠牲を強いるため、政治的な一党支配や独裁を伴うことが多かった。

計画経済体制の特徴

- 生産手段の国有。一部は集団所有
- 政治的な独裁制（一党支配、権威主義）
- 単一のヒエラルキー構造
- 指令的計画
- 物量による計画

物量による計画

- 計画は物量の単位で表現される。すなわち計画の目標は「鉄鋼100万トン、自動車10万台、化繊布10万㎡」といった形で表現され、「GDP成長率8%」という形では表現されない。企業は物量単位（トン、台、㎡など）で物資の配分を受ける。
- 計画は財ごとに総供給（生産）と総需要（配分）とをバランスさせる作業である。また労働供給と需要、資金供給と需要もバランスさせる。多数の $\sum Si = \sum Di$ を解く作業。

２．中国が計画経済を採用した動機

- 共産党が政権につき、中華人民共和国が誕生した時、目指していた体制は「新民主主義」
- すでに政治体制は共産党の一党支配、とりわけ毛沢東の力が強く、「民主主義」とは言えなかったが、「新民主主義」が意味したのは、既存の資本家・資本主義を存分に活用することであった。
- 当初の最も「革命的」な政策は土地改革であった。地主や富農の土地が貧農などに再配分され、時には地主の殺害に及ぶこともあった。

社会主義と計画経済の採用

- 1953年に社会主義による国づくりへ急転回。
- 背景には東西冷戦の深まり。朝鮮戦争（1950～53年） 重工業・軍需工業強化の必要性

朝鮮戦争：金日成と彭徳懐（人民志願軍の総司令）